

アカデミック・ライティングのための対比の「は」の再学習

高梨 信乃(関西大学)

1. はじめに

日本語の助詞は、学習者にとって習得が難しいものの1つであり、学習者のアカデミック・ライティング(以下、AW)においても、困難点の1つである。そのことは、高梨ほか(2017)で、3名の上級学習者の修士論文草稿にみられた誤用のうち49%が助詞に関わるものであったことから確認できる。

日本語教育の助詞の指導において、従来特に注目されるのは、「は」と「が」の使い分けであり、AWに関する教科書でも盛んに取り上げられている。一方、「は」に関してこれまで十分に取り上げられていないものに、対比の「は」がある。(1)~(3)は学習者のAWであるが、いずれも下線部が不自然であり、()内のように対比の「は」を使用する必要がある。

- (1)『総合日語』以外の教科書は「依頼」と「指示」に関する説明が(→は)なされているが、「勧め」に関する説明が(→は)なされていない。
- (2)JPの用例に(→には)ノデハナイカが10件あるが、CNに(→には)1件もない。
- (3)このような応答が10件のみで、頻繁に(→には)使用されていない。

このような学習者による対比の「は」の誤用(主に不使用)が少なくないことは、従来から指摘されている(謝・金城2005、野田2007など)ものの、詳しい考察はなされていない。

本発表では、AWという目的に焦点を当て、対比の「は」についてどのような指導を補えばよいかを考察する。そのために以下の研究設問(RQ)を立てる。RQ1とRQ3で現在地を、RQ2とRQ4で目的地を明らかにすることにより、何を補う必要があるかを探るという試みである。なお、今回はRQ1とRQ2を中心に論じ、RQ3、RQ4については、調査の現状と今後の見通しを述べる。

- RQ1) 対比の「は」は、従来どのように指導されているのか。
- RQ2) 対比の「は」は、AWでどのように使われているのか。
- RQ3) 学習者は、対比の「は」をどのように使うのか。
- RQ4) 母語話者は、対比の「は」をどのように使うのか。

2. 対比の「は」

対比の「は」は、「文中のある要素をとりたてて、それと同類のものとの違いを示す(日本語記述文法研究会2009:29)」という働きをもつ「は」である。文法研究では、尾上(1981)、青木(1992)、野田(1996)などにおいて考察されてきた。先行研究の知見のうち、本発表での考察のために確認しておきたいことを以下に挙げ、それについて述べる。

1) 対比には、(4)のように対比の相手が明示されている「明示的な対比」と、(5)のように対比の相手が明示されていない「暗示的な対比」がある。

(4) 子供たちはカレーは作っているが、ごはんは炊いていない。

(5) 子供たちは食器は持ってきた。

(野田1996:200)

この区別は教育上も重要であろう。ただし、後でみるが、いずれの対比にもいろいろな場合がある。

2) 対比の「は」には、使わなければ文が不自然になるもの(必須)がある。(4)の2つめと3つめの「は」がそれに当たる¹⁾。逆に言えば、使わなくても不適切にならないもの(非必須)もあるということである。

¹⁾ 野田(1996:205)は、「対比される部分が構造的に対立しているとき」すなわち「同類の2つの名詞にたいし

たとえば、(5)の2つめの「は」や(6)は非必須である。教育上は、必須の場合がまず重要となる。しかし、非必須であっても、使わなければ意味が変わるということには注意が必要である。

(6)あの政治家は国民には人気がある。

3)否定文では、(7)のように「は」が使われることが多い。これは暗示的な対比の「は」である。

(7)田中さんはビールは飲まない。

4)対比の「は」、格成分のほか、副詞的成分、述語などさまざまな要素に現れる。「は」はとりたて助詞であるので当然のことであるが、学習者への指導の際には留意すべき点である。

では、日本語教育では、対比の「は」はどのように指導されているのだろうか。

3. 対比の「は」は、従来どのように指導されているのか

RQ1の手がかりとして、日本語教科書における対比の「は」の扱いをみる。まず、主な初級総合教科書における扱い有無を、明示的な対比と暗示的な対比に分けて整理すると、表1ようになる。

表1. 主な初級総合教科書における対比の「は」の提出課

| | | 中級以降 | |
|---------------------------------|--------|---------------------|---------|
| | | 明示的な対比 | 暗示的な対比 |
| Situational Functional Japanese | 全 24 課 | まとめ 2 (8 課後) どちらか不明 | |
| 日本語初級大地 | 全 42 課 | × | × |
| ★初級日本語 新装改訂版 | 全 28 課 | 9 課 | × |
| NEJ テーマで学ぶ基礎日本語 | 全 24 課 | × | × |
| 初級日本語げんき第 2 版 | 全 23 課 | × | × |
| ★できる日本語初級 | 全 15 課 | 11 課 | × |
| ★みんなの日本語初級第 2 版 | 全 50 課 | 27 課 | × |
| ★文化初級日本語改訂版 | 全 34 課 | 8 課 | 6 課(否定) |
| 大学の日本語初級ともだち | 全 24 課 | 8 課 | × |
| ★初級日本語とびら | 全 20 課 | 3 課 | 7 課(否定) |

明示的な対比の「は」は、多くの初級総合教科書が扱っている。ただし、挙げられている例は(8)のように、野田(1996)のいう「対比される部分が構造的に対立している」典型的なものに限られる。

(8)「みんなの日本語初級Ⅱ」27 課 練習 A

6. サッカーははしますが、やきゅうははしません。

ひらがなははかけますが、かんじははかけません。

暗示的な対比の「は」については、「文化初級日本語改訂版」と「初級日本語とびら」の2種の教科書が否定文での「は」の使用について取り上げているのみである。

(9)「文化初級日本語改訂版」5 課

1) A: 朝、コーヒーをは飲みますか。

B: いいえ、コーヒーはは飲みません。ミルクを飲みます。

また、★印の教材は上のレベルの後継教材があるものであるが、中級以降で対比の「は」を扱っているのは「とびら」のみであり、それも「数は、N だけは、N くらいは」(5課)、「少なくとも～は」(15課)に限られている。

総合教科書にみられる上記のような傾向は、AWの教科書にも共通する。文法を詳しく扱っている小森・三井(1996)でも、対比の「は」で扱われているのは明示的な対比の典型的な例のみである。

て、それぞれの述語が肯定と否定で対立しているとき」は、対比の「は」が「ほぼ必ず使われる」としている。

以上から、対比の「は」について従来、指導されている内容はかなり限定的であることがわかる。

4. 対比の「は」は、アカデミック・ライティングにおいてどのように使われているのか

次に、RQ2のために研究論文における対比の「は」の使用をみる。

4.1 調査の方法

人文科学・社会科学分野の研究論文を資料として、対比の「は」の用例を収集した。人文科学・社会科学の論文を調査対象としたのは、日本の留学生のうち両分野を学ぶ学生の割合が高いことと、日本語での論文執筆が求められる場合が多いことによる。対象とする学会誌は、佐藤ほか(2013)が分析対象としているものから人文科学および社会科学領域に属する『日本語の研究』(以下、日研)『日本語教育』(日教)『日本文学』(日文)『日本近代文学』(近文)『社会学評論』(社評)『日本経営学会誌』(日経)『アジア研究』(ア研)の7誌を取り上げ、『日本語文法』(文法)を加えた8誌とした。以上8誌から5本ずつ、計40本の論文を調査対象とした²。調査の目的は、対比の「は」の使われ方を観察して、いくつかのパターンに整理することである³。パターンごとの用例数の比較など量的な分析は行わない⁴。

4.2 アカデミック・ライティングにおける対比の「は」の用例

以下では、収集した用例から観察されることと、指導との関連で注目したいことを述べる。

4.2.1 明示的な対比の「は」

(10) 一方、拾篇目集は、玉部では類聚名義抄との一致率が低く、風部では一致が目立つ。(日研②)

(11) 本人の学歴や仕事の有無についての構成効果を分析した研究は存在するものの、さまざまな社会的地位の構成変化がそれぞれどの程度、性役割意識の平等化に寄与したかについては十分明らかにされていない。(社評③)

(10)は、「は」がつく成分が同じ形の場合である。野田(1996)など先行研究で挙げられているのは、このような場合である。が、収集した用例には、(11)のように「は」がつく成分が異なる形の場合も少なくない。ここでは、それぞれ「同形」「異形」と呼んで区別する。従来、教科書などで対比の「は」を取り上げる際に示されているのは、ほぼ「同形」に限られることに注意が必要である。

また、明示的な対比は、1文内の対比だけでなく、(12)のように複数の文にまたがる対比もある。

(12) 第一事例モデルによるカテゴリー化においては、対象が類概念の指定する特徴に合致するかどうかに焦点が置かれる。一方、フレーム・役割モデルによるカテゴリー化においては、対象が状況の中で他の事物と結ぶ関係に焦点が置かれる。(文法②)

さらに、(13)のように、対比の相手が明示されていても、相手には「は」が使われておらず、「は」が

² 具体的には、論文選定に着手した時点で入手できた最新の号、あるいは最新号を含む何号かの中から、全抽出法もしくは等間隔抽出法によって論文を選んだ。なお、原著論文に限定し、書評論文、特集論文、寄稿論文は除外した。

³ 否定とともに使われる、対比的な意味の薄い形式化した「は」(「～ではない」など)や、もとは対比の「は」だと考えられるものを含む固定的な表現(「～とは限らない」「～とはいえ」など)は、対象外とした。

⁴ パターンごとの使用頻度は、分野、研究対象、分析・論述の方法などにより異なると思われる。本発表では、学習者が書くことになる可能性があるものとして、パターンを一通り提示することを重視した。

1つの場合もある。

(13) 中学校 2 年生では、「いつも」日本語を話す外国につながる生徒は、数学では上回っていないが、理科において日本人生徒全体の全体の得点の平均値・中央値を上回っている。(日教③)

明示的対比では、同形／異形、1 文内／2 文以上、「は」1 つ／「は」2 つの組み合わせでいろいろなケースがあるとわかった。

4.2.2 暗示的な対比の「は」

先行研究で挙げられている暗示的な対比は、ほとんどが否定述語とともに使われた例である。実際、収集した用例でも否定と共起しているものが多くみられる。

(14) 一方、(27) はガの用例で最も RD が高いタイプの用例で、対象名詞「凛くん」の先行詞となる語は 20 節以内にはない。(日研③)

(15) そもそも陸委会と海基会は委任関係にあるが、海基会は民間の寄付も受けており、政府が完全には管轄できない財団法人である。(ア研②)

しかし、一方で(16)～(18)のように肯定述語とともに使われており、暗示的な対比と認められるものもみられる。

(16) これは、高外交性組織であれば・・・結果的にその集団や組織内では孤立するということが現実的にも考えられるからである。(日経③)

(17) この古文書は、『伯耆民談記』に記載のあることから百年ほどは何らかの効力があつたのだろう。(日文③)

(18) 著者が気に掛けているのは線部のところで、この神社の「縁起」がこの元禄七年には失われているということである。(日文③)

学習者は、これまで受けてきた指導から「否定のときに「は」を使う」と認識している場合がある。一方、肯定との共起については留意していない可能性が高い。それぞれの場合を[～否定][～肯定]として区別することにする。また、「は」が副詞的成分につく場合については、(17)のような<程度・量>を表すものでは「少なくとも～」、(18)のような<時間・局面>を表すものでは「遅くとも～」といった意味が加わるため、注意が必要である。

以上で観察したことを踏まえ、AW における対比の「は」の使われ方を表2に整理する⁵。

⁵ 暗示的／～肯定／述語につくという組み合わせもありうるが、収集した用例にはみつからなかった。野田(1996:228)は、このタイプに該当する雑誌記事からの用例を挙げた上で、「思わせぶり、もったいぶった言いかたになる」としている。

表2. アカデミック・ライティングにおける対比の「は」の使われ方のパターン

| | | | | 用例 |
|----|-----------|-----------|--|---|
| A1 | 明示的 | 「は」 2つ | 1文内での対比 | 同形 (19) 構成効果を追加したモデル2では、時代効果はあまり変わらないが、世代効果は大きく減少する。(社評③) |
| A2 | | | 異形 (20) エンジン系では、全体としては地域的な偏りなく輸出が伸びているが、個別品目別には例えばガソリンエンジン部品(HS840991)は、韓国、ASEAN 向けが全体の 67%を占める。(ア研⑤) | |
| A3 | | 2文以上での対比 | 同形 (21) 第一事例モデルによるカテゴリー化においては、対象が類概念の指定する特徴に合致するかどうかには焦点が置かれる。一方、フレーム・役割モデルによるカテゴリー化においては、対象が状況の中で他の事物と結ぶ関係に焦点が置かれる。(文法②) | |
| A4 | | | 異形 (22) この観点から、「主役」は芝居や映画をパラメータに取る非飽和名詞であると認められる。一方、「俳優」という語については、あるひとが俳優であるかどうかを問題にすることが原理的に可能であるとし、飽和名詞と呼んでいる。(文法②) | |
| A5 | 「は」 1つ | 1文内での対比 | (23) しかしながら、五六四番歌が心にかけて紙に祈ると詠むのに対し、一四二番歌は年の経過に思いを馳せるのみに過ぎない。(日文②) | |
| A6 | | | 2文以上での対比 (24) 多くの場合、他動詞文(1b,2b)が用いられ、自動詞使役文(1c,2c)を用いることがない。あるいは他動詞文が使えない場合(3b)、自動詞使役形がその空白を補う(3c)。しかし、実際には自動詞使役文と他動詞文の両方が存在する場合もある(4b,4c)。(文法③) | |
| B1 | 暗示的 | ~否定 | 格成分につく (25) 前節で述べたように、自発性と意図性いずれによっても単一概念では自動詞使役文の成立条件を説明できない。(文法③) | |
| B2 | | | 副詞的成分につく (26) 一方、サチ子も「品物として愛されるのは迷惑千万」、「自由を束縛されることが厭」と言いながら、表立っては反抗せず、贅沢な暮らしを享受し、決して母から離れようとはしない。(近文④) | |
| B3 | | | 述語につく (27) 同記事によると、「日本の従来の文学」は必ずしもその目的に合致してはいないため、…(近文①) | |
| B4 | | ~肯定 | 格成分につく (28) このように定義される「可逆性」は、意図的に動作や出来事を起こさせることを表す「自制性」とは区別される。(文法③) | |
| B5 | | | 副詞的成分につく (29) ただし、いくつかの課題が残されている。第一に、「一つのカテゴリーを形成する」ことが正確にはどのようなことが明確ではない。(文法②) | |

表2から、AWIにおける対比の「は」の使われ方は非常に多様であることがわかる。では、学習者へのAW指導では、どのような対比の「は」を取り上げるべきなのだろうか。まず注目されるのが、必須／非必須の区別である。指導にあたっては必須の「は」が最優先事項となるが、非必須の場合であっても、「は」の有無によって意味は異なるのであり、AWIにおいて正確に意図を表現するためには、無視できない。非必須の「は」のさまざまなケースの中でどのようなものを優先的に指導するかを判断する必要がある。そのためには、どれくらいの母語話者がそこで「は」を使うかということが手がかりになると思われる。そこで、RQ3とRQ4の両方を目的とした小規模な調査を行った。次に述べる。

5. 学習者と母語話者は対比の「は」をどのように使うのか

5.1 調査の方法

表2で整理したパターンをもとに、空所穴埋め問題を作成し、以下の協力者に回答してもらった。

協力者：JL) 上級レベル以上の学習者23名(学部生・大学院生：中国17、台湾3、韓国2、ベトナム1)

JS) 日本語母語話者37名(学部生・大学院生)

空所穴埋め問題は、A1～B5 のパターンを網羅し、順番を並べ替えた22題である。空所は、対比の「は」に関するもの30箇所、対比の「は」に無関係なダミー23箇所を加えた53箇所を設定した。

・指示文：()に適当なひらがなを入れてください。()に入るひらがなは1つとは限りません。また、何も入れる必要がなければ「×」を書いてください。

・問題例：(空所1はダミー、2と3はA1)

1) [大学の学生アンケートについて] 「現状に満足していますか」という問い(1)対して、生活面(2)、「満足している」という回答が7割以上を占めているが、学習面(3)、「満足していない」という回答が多く、5割を超えている。

5.2 結果

30箇所の空所について、対比の「は」を使用したかどうかのみに注目した(たとえば、「～では」を用いるべき箇所「～には」を用いたような不適格な場合も、「は」使用としてカウントした)。

表3. JLとJSの対比の「は」の使用

| パターン | | A1 | | | | A2 | | | | A3 | | A4 | | | | A5 |
|----------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 空所番号 | | <2> | <3> | <17> | <18> | <5> | <6> | <29> | <30> | <9> | <10> | <14> | <15> | <31> | <33> | <21> |
| JL (23名) | 使用 | 18 | 19 | 16 | 18 | 0 | 20 | 17 | 5 | 5 | 12 | 8 | 4 | 4 | 19 | 5 |
| | 不使用 | 5 | 4 | 7 | 5 | 23 | 3 | 6 | 18 | 18 | 11 | 15 | 19 | 19 | 4 | 18 |
| JS (37名) | 使用 | 19 | 30 | 34 | 34 | 6 | 35 | 37 | 27 | 20 | 36 | 7 | 20 | 7 | 26 | 8 |
| | 不使用 | 18 | 7 | 3 | 3 | 31 | 2 | 0 | 10 | 17 | 1 | 30 | 17 | 30 | 11 | 29 |
| パターン | | A5 | | | | A6 | | | B1 | B2 | B3 | B4 | B5 | | | |
| 空所番号 | | <25> | <26> | <36> | <38> | <41> | <45> | <53> | <23> | <43> | <8> | <47> | <13> | <49> | <35> | <51> |
| JL (23名) | 使用 | 6 | 19 | 12 | 4 | 12 | 3 | 5 | 10 | 6 | 3 | 3 | 4 | 6 | 10 | 7 |
| | 不使用 | 17 | 4 | 11 | 19 | 11 | 20 | 18 | 13 | 17 | 20 | 20 | 19 | 17 | 13 | 16 |
| JS (37名) | 使用 | 4 | 37 | 29 | 7 | 31 | 13 | 4 | 4 | 28 | 16 | 14 | 3 | 16 | 34 | 31 |
| | 不使用 | 33 | 0 | 8 | 30 | 6 | 24 | 33 | 33 | 9 | 21 | 23 | 34 | 21 | 3 | 6 |

JL・JSともに、パターンによる差はあまりみられず、個々の箇所によって使用率が大きく異なる。しかし、JLでは、全体として、明示的な対比に比べ暗示的な対比での使用率が低いことがみてとれるのに対し、JSではそのような差がみられないことが注目される。以下、いくつかの箇所に注目する。

7) [禁煙のメリットについて] 禁煙には健康上のメリットが多くある。短期的(<17>)、禁煙してから20分以内に心拍数と血圧が低下し、長期的(<18>)、がんなどのリスクが大幅(<19>)下がるということが明らかになっている。

2) [男性の育児休業について] 少子化が進む日本では、出産・育児による労働者(4)離職を防ぐことが重要な課題であり、近年、法律の整備が進んできた。しかし、男性の育児休業取得率はここ数年上昇し(<5>)いるものの、顕著な変化(<6>)言えない。

11) [救急車の有料化をめぐるアンケートについて] 集計(28)結果、「安易に救急車を呼ぶこと(<29>)よくないと思うが、救急車の有料化(<30>)反対する」という立場の人が多くことが明らかになった。

13) [マンションの修繕計画について] このマンションは建築から20年以上(34)経っており、遅くとも来年(<35>)エレベータや駐車場などの設備の修繕を行う必要がある。

5) [大学の学生アンケートについて] 「就職活動の際、キャリアセンター(12)利用しまし

たか」という問いに対して「利用した」と答えた学生は 4 割弱にとどまった。このことから、キャリアセンターで行われている就職支援が学生のニーズに必ずしも合致（〈13〉）ないことがわかる。

【Ⅰ】「は」の使用率が JL、JS ともに高い箇所・・・〈17〉〈18〉〈6〉

「は」の必要度が高く、学習者も問題なく使える人が多いケースと言える。〈17〉〈18〉は、1 文内・同形の典型的な明示的対比である。〈6〉は、〈5〉との異形の明示的対比だが、直後に否定がきている。

【Ⅱ】「は」の使用率が JL では低く、JS では高い箇所・・・〈30〉〈35〉

「は」の必要度が高いと考えられるのに、使わない学習者が多いケースであり、指導を補うべきポイントの候補といえる。〈30〉は、〈29〉との異形の明示的対比である。〈35〉は、暗示的対比で〈時間・局面〉の副詞的成分につく場合である。

【Ⅲ】「は」の使用率が JL でも JS でも低い箇所・・・〈5〉〈13〉

「は」の必要度が低いと考えられ、学習者が使わなくてもあまり問題にならないケースと考えられる。〈5〉は異形の明示的対比、〈13〉は〔～否定〕の暗示的対比であるが、いずれも述語部分である点が共通する。

【Ⅲ】については、産出の指導の優先度は低いといえる。ただし、「は」の有無による意味の違いは、読解の際には問題となるだろう。本発表の射程からは外れるが、学習者がどのくらい理解しているか、調べる必要があると思われる。

6. おわりに

以上、上級学習者の AW のための対比の「は」の再学習について考えてきた。初級における対比の「は」の指導が限定的で、かつ中級以降の補充もほとんどないのに対し、AW における対比の「は」の使われ方は多様であり、その間に大きなギャップがあることがわかった。ギャップを埋める指導のポイントを見出すためには、学習者の使用と母語話者の使用を同時にみていく必要があるが、それらについては本発表ではパイロット調査の域を出ていない。今後、データも増やし、さらに考察していきたい。

【用例を引用した研究論文】

(日研)：②=高橋・高橋論文，③=池田論文，以上20-1，(日教)：③=市瀬論文，187，(日文)：②=古家論文，③=原論文，以上 68-6，(近文)：①=田部論文，④=中尾論文，以上 108，(社評)：③=阪口論文，74-1，(日経)：③=高橋論文，52，(ア研)：②=黄論文，70-3，⑤=杉田論文，70-1，(文法)：②=氏家・田中論文，③=王論文，以上24-1

【引用文献】

青木伶子(1992)『現代語助詞「は」の構文論的研究』笠間書院
尾上圭介(1981)「「は」の係助詞性と表現機能」『国語と国文学』58-5、至文堂
佐藤勢紀子・大島弥生・二通信子・因京子・山路奈保子(2013)「学術論文の構造型とその分布—人文科学・社会科学・工学 270 論文を対象に—」『日本語教育』154、日本語教育学会
謝福台・金城尚美(2005)「日本語学習者の「は」と「が」の使い分けに関する一考察—中国語母語話者と韓国語母語話者の場合—」『琉球大学留学生センター紀要』2、琉球大学留学生センター
高梨信乃・齊藤美穂・朴秀娟・太田陽子・庵功雄(2017)「上級日本語学習者に見られる文法の問題—修士論文の草稿を例に—」『阪大日本語研究』29、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法 5 第 9 部 とりたて 第 10 部 主題』くろしお出版
野田尚史(1996)『「は」と「が」』くろしお出版
野田尚史(2007)「日本語非母語話者の日本語とりたて助詞の不使用」中西久実子編『主題・とりたてに関する非母語話者と母語話者の運用能力の対照研究』平成15年度～平成18年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書

【付記】本研究は、JSPS 科研費 219K00637 の助成を一部受けています。